

I 目指す学校

本校は、次代の日本を支えるリーダーを育成する学校として、その使命を果たしていく。学校生活を通して生徒一人一人の自己理解を深めさせ、個性と能力を引き出し伸ばすとともに、人間性を磨き他に対する思いやりの心、自他の生命を尊重する心、社会貢献の精神を育成する。特に生きる力を支える「確かな学力」を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図ることを目指す。

そのために、次の目標を達成する学校づくりを推進する。

- ① 国公立大学や難関私立大学等、生徒の高い進路希望を実現する学校
- ② 豊かな人間性・社会性、自らを律する心、強健な心身を育成する学校
- ③ 多様性を認め、自他の文化を尊重するグローバル人材を育成する学校

《スクール・ミッション》

英語4技能をバランスよく育成する英語教育の推進、海外の学校との相互交流による国際理解教育の推進、理数系の素養を持つ生徒の裾野を拡大する教育活動や将来の東京の教育を担う人材の育成に向けた高大連携による教育活動等を通して、次代の日本を支えるリーダーを育成します。

《アドミッション・ポリシー〔入学者の受入に関する方針〕》

- 1 本校の教育方針をよく理解し、志望の動機と将来への目的意識がはっきりしている生徒
- 2 高い目的意識をもって主体的に粘り強く学習に取り組む意欲をもつ生徒
- 3 学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮することのできる生徒
- 4 基本的な生活習慣を身に付けており、自己を厳しく律してけじめのある生活を送ることのできる生徒

《カリキュラム・ポリシー〔教育課程の編成及び実施に関する方針〕》

- 1 生徒の高い進路希望を実現することのできる学習指導と進路指導を実践する。
- 2 文系・理系に関係なく、生涯にわたって学び続けることのできる基礎・基本を習得させる。
- 3 各教科等で育む資質・能力を明らかにし、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点から教育活動の改善を行う。
- 4 学習活動と特別活動のバランスをとり、すべての教育活動を通じて、豊かな人間性・社会性を育む。
- 5 学校評価を生かした教育課程の編成・実施・改善に取り組む開かれた学校にする。
- 6 特色ある教育活動を通じて、国際的な視野、探究的な態度、社会貢献の精神などを醸成する。
- 7 土曜授業等を活用し、生徒の学力向上の促進を図る。

《グラデュエーション・ポリシー〔育成を目指す資質・能力に関する方針〕》

基本的な知識・ 技能の習得	知識・技能	基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる
	読解力	通常の文章の他、図やグラフ、表などテキストから、情報を取り出し、理解・解釈する力を身に付ける
思考力・判断力・ 表現力の育成	情報活用力	課題や目的に応じ、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造する能力を身に付ける
	論理的思考力	演繹的思考・帰納的思考・類推などの方法を使い、筋道立てて考える力を身に付ける
	課題解決力	自ら課題を発見し、情報をもとに判断し、解決する能力を身に付ける
	発信力	自分の考えを記述・論述するとともに、分かりやすく他者に伝える方法を身に付ける
学びに向かう 力、人間性等の 育成	自己調整力	自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善する
	主体性・協働性	主体性をもって、多様な人々と協働して学ぶ
	粘り強さ	問題解決に当たって、粘り強く考え、よりよい解決策を導く

Ⅱ 中期的目標と方策

1 学習指導

(1) 進学指導推進校として、授業改善・指導力向上の推進

- ① スクール・ポリシーを指導の基軸に据えて、学習指導要領に基づいた指導計画を作成し、学力向上に向けた組織的な取組を推進する。
- ② 教員相互の授業参観の実施、学校運営連絡協議会協議委員による授業等視察を実施、学校評価や生徒による授業評価を活用した校内研修の実施、指名制による授業見学や指導教諭による模範授業等により、授業力の向上を図る。
- ③ 読書活動やビブリオバトル、英語教育推進校としての取組等により言語活動を充実させ、読解力及び思考力・判断力・表現力を育成するとともに、大学入試における記述問題や小論文問題等を解く力を身に付けさせる。
- ④ 「英語教育推進校」として、外部検定を用いた効果測定を行い、英語4技能をバランスよく育成する。また、JETによるティームティーチングの授業や英作文の添削指導を行う。

(2) 「総合的な探究の時間」の活用

- ① 1学年（「人間と社会」の代替）では、応急給水訓練、職業インタビュー、障害者理解教育等の体験的学習を通して「人間としての在り方、生き方」を考察させ、道徳的实践力を高めさせる。また、模擬投票等を取り入れた主権者教育を推進する。
- ② 2学年では、「学びの旅」をテーマに学習する。進路講演会や上級学校訪問、大学模擬授業などによる体験的な学習、修学旅行で訪問する地域の歴史・文化・自然に関する調査・研究、ワークシートや小論文学習などを通して、自己の在り方生き方や進路に関する探究を行う。
- ③ 3学年では、「学びの輝き」をテーマに学習する。体験学習や、小論文指導などを通して、これまで学習した知識・技能を基礎に、自己の在り方生き方を深化させる。また、多様化する入試制度や上級学校について理解を深めながら、個々の興味・関心を掘り下げ、卒業後の進路や夢の実現について考え、調べ、まとめることにより生きる力を育成する。同時に、3年間の集大成として、自ら課題を設定し、その解決に向けた取組を通して思考力・判断力・表現力と問題解決能力を育む。

(3) 「カリキュラム・マネジメント」の促進

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点から教育活動の改善を行う。
- ② 生徒の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成・実施・評価して改善を図るPDCAサイクルを確立する。
- ③ 各教科等で育む資質・能力を明らかにし、教育課程の編成に取り組む。

2 進路指導

- ① 実力テストや学力検査等の組織的な分析を通して、生徒の実態の把握に努め、情報を共有することで、生徒個々の実態に応じた進路指導を行う。
- ② 3年間を見通した進路指導計画を再構築し、各学年が年間計画に基づいて実施する校内模試の結果やその推移を基に、生徒一人一人に適切で充実した進路指導を全教職員が協働して行う。
- ③ ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」を活用し、身近な社会で活躍する人々の講演を聴くことやインタビューをすることにより職業に対する理解を深め、キャリア教育の充実を図る。
- ④ 年間20回の土曜授業の実施、平日の始業前・放課後及び土曜日の補講の充実、予備校の衛星講座の活用、自主学習支援アドバイザーの活用等により生徒の学力の向上を図る。
- ⑤ 国公立大学や難関私立大学への進学希望に応えるために、長期休業日中の講習の更なる充実を図り、大学入学共通テストの高得点者割合の増加を目指す。
- ⑥ 多摩地区国公立大学合同説明会や大学との広範な連携を通して、高い志を育成する取組を推進する。
- ⑦ 「進学指導推進校」として、生徒一人一人の進路希望を実現するため、外部検定試験等を活用した学力データ分析に基づく組織的な指導を行うとともに、組織的に授業改善に取り組み、生徒の確かな学力の伸長を図る。
- ⑧ 東京学芸大学との高大連携協定を受け、希望する生徒に教師としての基本的な素養や職業意識等を育成するとともに、その学びを大学での専門的な学びにつなげる「高大連携による教員養成プログラム」を計画・実施する。

3 生活指導

- ① 生活指導指針・「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画を作成し、基本的な生活習慣や規範意識を生徒一人一人に身に付けさせる。特に、授業規律、時間遵守、挨拶の励行、校内美化を全教職員が協働して指導する。
- ② 「安全教育プログラム」の活用やセーフティ教室等を通じて、情報リテラシーや薬物乱用防止等の安全に配慮する心を育てる。また、自殺防止対策に資する教育の推進に学校全体で取り組む。
- ③ 「学校いじめ対策委員会」の役割と具体的な取組を明確にするとともに、全ての教職員により、いじめの総合対策・学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止（いじめの未然防止、早期発見・早期対応）に学校全体で組織的に取り組む。

4 特別活動・部活動

- ① 学習指導要領の趣旨と令和3年度学校評価アンケートの結果を踏まえ、学校行事や生徒会・部活動への主体的な取組を促し、生徒の自主性・自律性を育む。
- ② ホームルーム活動の活性化を図り、集団の一員としての望ましい資質や態度を身に付けさせるとともに、いじめ防止の取組等を通して道徳教育の充実を図る。
- ③ 年4回の避難訓練、防災訓練を通して、自治体や外部機関、近隣自治会と連携した防災・減災教育に取り組み、生徒の自助・共助の高い意識を育む。
- ④ 国や都のガイドライン等を踏まえ、部活動の指導を通して、思いやりの心や自主性・社会性の育成、豊かな人間関係の構築や生涯学習の基礎づくり、生徒の個性・能力の伸長、そして、体力向上や健康増進等を図る。また、週休日の部活動時間の改善を進めることで、生徒の自主学習時間の確保と適切な休養の取得を図る。
- ⑤ 「理数研究校」として、大学研究室訪問、科学フォーラムや講演会などの科学的催しへの参加等を通して、理数に関する興味・関心を高める。また、グループでの探究活動により科学的思考力や態度を育成し、「科学の祭典」のポスター発表を通じて、プレゼンテーション能力を伸長させる。
- ⑥ 「海外学校間交流推進校」として、長期休業期間を利用した相互訪問をはじめ、オンライン交流などを実施することにより、世界で通用する実践的な英語力を育成するとともに、日本人としての自覚と誇りを涵養するなど、国際理解教育を推進する。

5 健康づくり等

- ① 生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。また、共生社会の中で、多様性を尊重した教育を推進し、特別な支援を必要とする生徒に対して適切かつ合理的な配慮を行う。
- ② PTAや関係機関と連携をして、生徒の不安や悩みを把握し、必要な対応を行うことができる支援体制を構築するなどにより、自殺防止の徹底を図る。また、保健体育等の時間を使い、教材を活用したSOSの出し方に関する教育を実施する。
- ③ 体育の授業や体力テストの事前学習の充実、部活動、体育大会等の学校行事を通して生徒の体力向上を図る。また、東京2020オリンピック・パラリンピック閉会後も、スポーツと共に、日本や世界各国の伝統・文化への関心を高めるオリンピック・パラリンピック教育（レガシーの継承）を推進する。

6 募集・広報活動

- ① 組織的な広報活動を推進し、本校の教育活動を広く発信する。
- ② 家庭や地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。

7 学校経営・組織体制

- ① 生徒・保護者の期待に十分応えられるように、校内組織体制の充実を図る。
- ② 法令を遵守し、服務事故のない学校づくりに全教職員で取り組む。
- ③ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ④ 意思決定の過程を明確にするとともに、経営企画室の機能を高め、学校経営の基盤を強化する。また、意図的・計画的な予算編成と効率的な予算執行を行う。

Ⅲ 今年度の目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [昨年度数値]
1 学習指導 (1) 進学指導推進校として、質の高い授業を創造・実践する。 ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、活用する学習活動に取り組む。また、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ② 生徒が思考・判断・表現する授業場面を設定することにより、生徒の主体的に学習する態度を醸成する。 ③ 英語教育研究推進校として、CAN-DO リストを活用した指導と評価に取り組むとともに、外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、指導方法を改善する。 ④ 相互授業参観や指名制による授業研究、外部の研究会への参加などによって、授業力向上に努める。また、その成果を各教科で共有する。 (2) 新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するために、「教科マネジメント」を確立する。 ① 3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。 ② 定期考査・外部模試等の分析、生徒による授業アンケートを活用し、授業改善に取り組む。 ③ 学力スタンダードに具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。 ④ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を進める。 ⑤ 年間行事計画等を見直し、授業時間の確保に努める。	(1) 授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。 ① 生徒による授業アンケートを活用する他、相互授業参観や校内研修を通して、授業改善に取り組む、組織的に授業満足度を高めていく。 ② 思考力及び記述力・論述力を測る定期考査の作成に各教科で取り組むとともに、定期考査問題の共通化を推進する。 ③ 指導と評価の一体化に取り組む。 (2) 新学習指導要領に対応した教育課程を学年進行で行う。 ① スクール・ポリシーに基づいた年間指導計画を作成する。 ② 観点別学習評価を実施し、多角的・多面的な評価を行う。 (3) 適時適切な課題(宿題)を設定し、学習習慣の定着を図るとともに、自学自習の取組を支援する。 ① 課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。また、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。 ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。 【数値目標】 ア 生徒による授業アンケートの各項目で、肯定割合 80%を達成する。 「学習内容のわかりやすさ、準備・工夫」[85.2%] 「思考・判断・表現力の伸長」[84.3%] 「興味・関心、意欲の喚起」[80.0%] イ 学校評価アンケート 「能力を伸ばす教育の実践」80% [生徒 78.4%、保護者 62.7% 《16.8%》]、 「満足できる授業が多い」80% [生徒 75.9%、保護者 61.9% 《18.0%》] を目指す。 ウ 全科目において大学入学共通テスト全国平均 +15.0p [+10.7p] (100 点満点換算)、得点率 80% 以上の割合 50% [29.0%] を目指す。 エ GTEC の各学年同時期の最高スコア [1 年 640.6 点, 2 年 671.9 点] を超える。
2 進路指導 (1) 3年間を通して一貫した組織的な進路指導体制を構築する。 ① 生徒の主体的な学習を促すため、キャリア教育に基づく学習指導、進学指導を行う。 ② 生徒・保護者に対して意図的・計画的な情報提供・ガイダンス等を積極的に行うとともに、講習を充実させる。 ③ 3学期を、次年度の○学年 0 学期と位置付け、学年・進路部・各教科が連携して組織的な取組を	(1) 生徒の自主学習時間を確保するとともに、第一志望実現を支援する。 ① 部活動・行事準備期間の校内ルールを遵守するとともに、自習室・自習スペースを確保する。 ② 外部映像教材の提供に関する運営体制の改善を図る。 ③ 「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育を組織的に取り組み、充実させる。 (2) 個別ケース会議を計画的・機能的に実施し、き

スタートさせる。 ④ 成績推移等の情報を共有し、担任・教科担当・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励まし、第一志望を貫くよう学校全体で支援する。 (2) 国公立・難関私立大学受験の取組を強化する。 ① 生徒面談や三者面談等を通じて、一人一人の適性・能力に応じた指導を行う。 ② 都の「志」育成事業である首都大学や京都大学などのフォーラム等に積極的に参加させ、それを機会に高等教育に対する興味・関心を高める。 (3) 「高大連携による教員養成プログラム」を東京学芸大学との連携により推進する。 ① 1・2年生向けの講演や希望者対象のワークショップ、キャンパス訪問等を計画・実施する。 ② チーム・エデュケーションを推進する。	め細やかな指導を行う。 ① 外部模擬試験等の事後指導において、学年や時期に応じた振り返りを行い、次の模試に向けた学習計画に反映させる。また、安易に受験科目数を減らさせない支援・指導を行う。 ② 大学入学共通テストの結果をもとに、志望校検討会を実施し、個別指導につなげる。 (3) 教科会の機能を強化し、組織的な教科指導の確立と学校全体の学習指導力の向上を図る。 ① 各教科で模試分析資料を作成し、教科会で検討し、教科指導・個別指導へ反映させるとともに職員会議で共有する。また、適宜ケース会議を設定する。 ② 学力層に応じた組織的な補習・講習を計画的に実施する。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「第一志望実現の進路指導」80%〔生徒 89.7%、保護者 71.2%《20.0%》〕、 「進路情報の提供」80%〔生徒 90.3%、保護者 79.0%〕を達成する。 イ 国公立大学現役合格者 50 名〔51 名〕を目指す。 ウ 大学入学共通テスト 5 教科 7 科目受験 40%〔38.2%〕を目指す。 エ 長期休業期間中にのべ 180 日〔166 日〕の補習・講習を実施する。 オ 学年+1 時間の自主学習時間を確保する指導を行い、40%〔36.1%〕を目指す。
3 生活指導 (1) 規律ある学校生活の中で、自立の精神を養う。 ① 挨拶や身だしなみ、チャイム始業等の授業規律等の指導を通して、本校生徒として相応しい態度の育成及び自己管理能力の涵養を図る。 ② 地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー等の課題解決を図る。 ③ 学校いじめ対策委員会を中心に、学年、分掌等の連携のもと、いじめのない学校づくりを推進する。また、学校の教育活動のあらゆる場面で、体罰や不適切な指導の根絶に努める。 ④ 防災教育推進委員会と連携し、年 4 回の避難訓練、防災訓練を計画・実施する。	(1) 全教職員が一体的に生活指導に取り組む。 ① 「SNS 学校ルール」に基づき指導を行うとともに、講演会を企画・実施する。「SNS 家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。 ② 年間 3 回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。また、計画的に保護者との面談を設定し、確実に周知し、実施する。 ③ 基本的生活習慣を確立させるとともに、組織的に遅刻指導に取り組む。 ④ 面接指導等を通じて、スマホ利用時間や部活動時間を自律的に制御する能力を育成する。 ⑤ いじめのアンケートを年 3 回（6 月、10 月、1 月）実施し、早期発見に努める。また、取組内容や成果など、保護者の理解を深めるように情報発信等周知に努める。 【数値目標】 ア 遅刻指導を徹底し、遅刻者数を減らす。（各クラス 1 日平均 0.5 人以内〔0.44 人〕） イ 学校評価アンケート 「生徒と向き合う生活指導」80%〔89.7%〕、 「いじめ防止」80%〔85.7%〕、 「体罰・暴言のない指導」80%〔92.6%〕、 「安全指導・防災教育」80%〔89.3%〕を達成する。

4 健康づくり等 (1) 健全な心身を育む取組を行う。 ① 生徒の心身の健康づくりを推進するために、学校保健委員会の充実やスクールカウンセラーとの連携強化に努める。また、特別支援教育を推進する。 ② 「高校生の意識」調査を実施し、教育相談等に活用する。 ③ 体力テストで自己の課題を把握させ、一人一人が自分の目標をもって取り組む指導を行う。 (2) 校内美化・保健衛生に取り組む。 ① 学習環境整備のため、全校あげて美化活動に取り組む。 ② アレルギーを有する生徒情報を共有するとともに、エピペンの使用方法に関する研修を実施する。	(1) 教育相談機能の充実を図る。 ① スクールカウンセラーによる1年生全員面接を1学期中に実施する。また、SC情報共有会（ケース会議）を開催するなど支援が必要な生徒情報を共有する。 ② 専門医派遣事業による精神科医による学校相談活動を継続し、不適応生徒等に対応する。 (2) 美化・清掃活動を徹底する。 ① 清掃分担等を見直し、更衣室やトイレなどの校内美化・整備に取り組む。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「教育相談の環境整備」80%〔84.9%〕、 「衛生・清掃状況」80%〔99.7%〕を達成する。 イ 体力合計点の各学年の校内平均値を、全国平均値以上へと向上させる取組を行う〔全国比男子-1.5p、女子+2.5p〕。
5 特別活動・部活動 (1) 学習との両立を推進し、特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。 ① 合唱コンクール、体育大会、文化祭、修学旅行等の学校行事を通して、成就感や達成感を高める。 ② 「部活動の在り方に関する方針」に則り、部活動に係る活動方針を策定し、各部活動の指導方針・指導計画を作成し、適切な指導、運営を行う。 ③ 地域、関係機関との連携を密にし、地域行事、ボランティア活動、奉仕活動へ参加させる。 ④ オリンピック・パラリンピック教育（レガシーの継承）を推進する。 (2) 「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げ、探究活動に取り組む。 ① 「科学の祭典」に参加し、その他各種科学コンテストへの出場を目指す。 ② 専門機関の講師による講義や実習を実施し、研究及び発表内容の充実を図る。 (3) 「海外学校間交流推進校」として、国際理解教育を推進する。 ① 長期休業期間を利用した相互訪問をはじめ、オンライン交流などを実施する。 ② 異文化を体験するとともに、日本文化を発信し、相互の文化について理解を深め、日本人としての自覚と誇りを涵養する。	(1) 学校の「新しい生活日常」に基づき、学校行事の実施内容や形態を見直す。各学校行事の伝統継承や刷新の取組を支援し、一層の充実を図る。 ① 三人行事をはじめ、コロナ禍においても可能な限り実施できるよう工夫する。 ② 令和5年度に向けて合唱コンクールや体育大会の開催時期を検討する。また、精選を含め学校行事の改善を図る。 ③ 生徒会・委員会の主体的な活動や各行事実行委員会の自主的・自律的な活動を支援する。 (2) 部活動の適正化や活性化に取り組む。 ① 生徒の実態を把握し、魅力ある部活動づくりに取り組み、部活動の加入率を高めていく。 ② 学習と部活動の両立に向けて、活動時間・活動日数などメリハリある活動を促進する。 ③ 外部指導員を活用するなど、部活動の支援と一層の充実を図る。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「個性豊かな人間性の育成」80%〔87.7%〕、 「部活動満足度」80%〔86.4%〕、 「学習と部活動の両立」80%〔65.3%〕を目指す。 イ 部活動加入率100%〔96.5%〕を目指す。
6 募集・広報活動 (1) 本校の認知度を高め、第一志望とする生徒を増やし、受検につなげる。 ① Webページや学校便り等による情報発信を強化し、広く都民に本校の教育活動を周知していく。 ② 学校説明会や学校見学会、公開授業などの機会に、学校の特色や魅力を伝えていく。	(1) 学校見学会・説明会の充実と、適時適切な情報発信を行う。 ① Webページを一層充実させ、生徒・保護者及び中学生等に必要な情報を積極的に発信する。また、年間365回以上〔179回〕更新を行う。 ② 広報活動の実施時期に合わせ、説明動画配信・

③ 学校開放事業や公開講座等により、地域に開かれた学校を目指す。	オンライン面接を併用して、一層効果を高める。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「適切な情報発信」生徒 80% [85.9%] イ 来校者満足度 100% [96.5%]
7 学校経営・組織体制 (1) 組織的な学校運営を推進する。 ① 企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を密にし、ボトムアップ機能を充実させる。 ② 戦略的な予算編成や広報活動への関与等により、経営企画室の学校経営への参画を強化する。 ③ 教科会を充実させるとともに、教科主任会を適宜実施し、教科を横断した学習指導に関する情報交換や連携を促進する。 ④ 年 3 回の服務事故防止研修等により個人情報管理や体罰等の防止対策など、服務事故の未然防止に努める。 ⑤ OJT を通して、若手教職員の育成に努めるとともに、管理職候補者等の発掘・育成に努める。 (2) 「国際人を育成する学校」を具現化する教育を計画・推進する。 ① 「学校 2020 レガシー」として、国際交流等を企画し、東京 2020 大会以降も継続的に豊かな国際感覚を育成するとともに日本人としての自覚と誇りを醸成する。 (3) ライフ・ワーク・バランスを推進する。 ① 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 ② 各種会議の上限時間を設定する等時間短縮に取り組み、教職員の在校時間の縮減を図る。 ③ 年休取得等促進及び超過勤務等縮減に計画的に取り組む。 (4) デジタル技術を活用した教育を推進する。 ① 統合型校務支援システム、定期考査採点・分析システムの活用を推進する。 ② 一人 1 台端末や ICT 機器の活用を推進し、個別最適化された学びの実現を目指す。	(1) PDCA（計画、実施、評価、改善）のマネジメントサイクルの機能を高める。 ① 学校評価や授業評価、アンケートなどを活用し、的確に課題を把握するとともに、学校経営の一層の改善を推進する。 ② 学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 (2) ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を一層推進する。 ① 分掌間、分掌・学年間の連携を強化するとともに、業務の見直しなど、業務の効率化を図る。 ② 学校閉庁日の実施、「休暇取得促進ウィーク・月間」の設定等、年休取得の促進を図る。 ③ 超過勤務縮減に向けた取組として、月 1 回以上の完全消灯日の設定の他、定時退庁の促進を図る。 ④ 看護休暇・短期介護休暇等の利用を推奨する。 【数値目標】 ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった」評価 100.0% [88.9%] を目指す。 イ 学校評価アンケート (入学満足度) 80% [89.6%]、 (学校生活の充実度) 80% [88.9%]、 (能力を伸ばす教育の実践) 80% [78.4%]、 (施設設備の整備) 80% [91.5%] を目指す。